

皆様こんにちは！いかがお過ごしでしょうか？



8月から教会の再開をと予定しておりましたが、現在の状況からあとひと月様子を見ながらと安全策を取り9月の再開を目指して行きたく思っております。

東京の本部大聖堂を中心とした施設も11月30日までクローズを延長しました。

しかしながら誰もいない大聖堂でご命日のご供養や導師挨拶が行われ、孟蘭盆会の式典では会長先生がご挨拶を下さり、私たちはインターネットを通じその式典に参加することもできました。

こうしたコロナ感染の状態が続く中感染により亡くなられた方々へのご冥福を祈らせていただくとともに、現在加療で入院されている皆さまの早期回復を祈念申し上げます。さらに医療関係者の献身、日々の生活を支えて下さっている皆様への感謝を忘れることが出来ません。

世界中で起きているこの事態をただ大変だと思うだけでなく、一旦立ち止まり私たちの在り方を見つめてみる機会も大切ではないでしょうか。その意味では仏教的視点でどうとらえればよいのかをこの際考えてみたく思います。

この地球上に生命が誕生して40億年を経て人類がいるわけですが狩猟生活、農耕文化、牧畜文化、貨幣社会につながり発展してきました。やがて科学技術が進み資本主義社会の真ただ中に私たちは暮らしています。

一見便利で豊かな生活ではありますが、はたしてそれだけなのか、このままで良いのか謙虚に反省する機会としてとらえられるなら次への成長につながるはずです。

自然と共に暮らしてきた人間が、やがて自然を克服・支配し人間中心の乱開発により快適な都市社会を作ってきました。その中で人間の欲望はますます肥大化し、もっともっとという連鎖に陥ってきているのではないのでしょうか。

文明や科学技術の発展は決して悪いことではありませんが、その発展が人間だけのものではなく大自然と共にと言う大きな視点に広げてゆく必要があります。

人間が地球上のすべてのものを支配・管理するという考えから、人間も自然の一員として調和した生き方への転換点に立っているのではないのでしょうか。

幸い私たちは仏教の教えをいただきその智慧をたくさん学んできました。

「共生」（ともいき）と言う考え。

人間は自然と共に一体となって暮らしてゆく生き方が示されています。

「草木国土悉皆成仏」（木も草も自然も全てに仏性が宿る）という世界観。
天台宗・最澄の教えですが全てのものがいききとその役割を果たす意味を持っているという日本仏教の大切な思想です。

「小欲知足」は欲を否定することではないが同時に満足を知ると言う欲望をコントロールすることの大切さを教えています。

こうした仏様の物の見方を通して今の生活の在り方を振り返り、一人一人が実行し自己改革を図り多くの方に伝えてゆく姿勢が問われているのではと思います。
一人一人の実行はささやかなものかもしれませんが、その一歩が大きな流れに繋がるものと確信しています。

これから本格的な夏の到来です、マスクをしながら夏の日差しはきついものがありますが熱中症に気を付けて、こころは爽やかに前向きに歩みましょう。

RKNY 畠山友利

